

現在の山田の街並み
平成17年10月21日撮影

やまだ 広報

No 854

昭和10年ころの山田の街並み

今号の主な内容

町長あいさつ	2~3
山田町合併50周年企画	
「目で見る町の歴史」	4~29
みんなのスペース	30~31
町のわだい	32

11月1日号 2005

発行/岩手県山田町 〒028-1392 岩手県下閉伊郡山田町八幡町 3-20 ☎0193-82-3111 編集/総務課



「広報やまだ」は環境に優しい古紙100%の再生紙と大豆油インキ(植物油)を使用しています。





合併50周年に当たり 歴史から学ぶもの

昭和三十年三月一日、一町四力村住民の熱い期待を担って新生山田町が誕生しましたが、その第一歩を踏む道は決して平坦なものではありませんでした。終戦後十年、ようやく戦後の混乱期を脱したとはいえ、十分な財源の伴わない予算編成に悪戦苦闘した様子が当時の町の広報紙から読み取れます。翌年には、赤字団体を脱するために地方財政再建促進特別措置法の適用を受け、五年間にわたる努力の末この窮地を脱したのです。

しかし、試練は続きませんでした。昭和三十五年五月、千里地震津波による町内の被害は十億二千万円を超え、この額は町の年間予算の十倍にも匹敵するものでしたが、町民の努力はもちろん、全国から寄せられた善意や国・県からの厚い支援もあって災害を乗り越えることができたのです。

一例を挙げましたが、この五十年を振り返れば想像もつかないような険しい山もあれば深い谷もありました。ただ、いかなる危機に遭遇しても、町民の英知とまちづくりへの不屈の情熱があればこれを解決できる。私たちが歴史から学んだこと、そして、諸先輩から自らの実践を通じて伝えていただいたものは、このことに尽きるのではないのでしょうか。

五十年の星霜を重ね、私たちは再び歴史の大きな転換点に立っています。今まで体験したことのない少子高齢社会という厳しい環境ではありますが、先人が営々と築き上げてきた山田町のさらなる発展を期して、すべての町民の皆さんとともにまちづくりへの決意を新たにします。

終わりに、記念すべきこの節目の年に当たり、今までそれぞれのお立場からまちづくりへのご指導、ご支援、ご協力を賜ってまいりましたすべての皆さんに心からの感謝を申し上げます。

山田町長

沼崎喜一



町章



「山田」の2字を抽象化したもの。

イ…町民の平和と湾、波を表す
ロ…町民の協力と波を表す
ハ…町の発展と船を表す

(昭和45年11月2日制定)

町民憲章

私たちは、より美しく明るい郷土山田町の実現を念願し、その成果を永劫に子孫に伝えるために

- 一 海の青、山の緑を永遠に守りつづけてまいります。
- 一 すぐれた教育と文化を高め、その成果を常におし進めてまいります。
- 一 年長者を尊敬し、たくましい青少年を育ててまいります。
- 一 みんなが知恵と力を出し合い、生産性豊かな郷土にまいります。
- 一 きまりを守り、健康で安全な住みよい町にまいります。

(昭和五十年十月一日制定)



町の鳥「うみねこ」

山田町で普通に見られるカモメ類で、その鳴き声がネコに似ている。純白な姿は典型的な浜の鳥であるが、尾の先端に5センチほどの黒い帯があり、他のカモメと見分けられる。

(昭和50年10月1日制定)



町の木「すぎ」

日本特産の常緑高木で、その名は直木(すぎ)またはスクスク伸びるの意から出たといわれている。建築材料として重要で、山田町にも多くの造林がある。



町の花「はまなす」

海岸の砂地に生える落葉低木で、6月～7月に開花し、香りがよい。最近では少なくなったが、瀬磯海岸などの一部に生育している。

昭和三十年三月、旧山田町、豊間根村、大沢村、織笠村、船越村が合併して誕生した山田町。今年で五十周年の節目を迎えました。これまでの歴史には明るい話題もあり、苦難の道もありましたが、この町の発展は先人の熱意と汗なくしては成し得ませんでした。今号では、合併五十周年記念企画として、この町で暮らしてきた先人の生活や町の移り変わりを伝えるため、「目で見る町の歴史」をコンセプトに、山田のおいたちから合併前、そして合併後の主な出来事の写真を紹介し、その歴史を振り返ります。

山田町のおいたち

霊亀元年（七一五）、須賀君古麻比留等が閉伊郡（閉伊郡）に郡家を建てることを願い、許されました。このことから奈良時代初期には、国政が閉伊の地にも及んでいたことが分かります。

文治五年（一一八九）、源頼朝は奥州藤原氏を討ち奥州を諸將に分与、源為頼は頼朝より閉伊郡を賜り、閉伊頼基と名乗って閉伊郡を治めたといわれています。弘安八年（一一八五）ころには、閉伊三郎左衛門十郎が閉伊郡を治めています。

時代がくだり、遠野阿曾沼氏の一族、大槌孫八郎は南部氏によって大槌城代に任ぜられ、その所領は平田から豊間根まででした。慶長十八年（一六一三）、大槌氏の失脚後に浜田氏、後に下田氏が城代を務めました。寛永九年（一六三二）には城代を廃し、代官（代官所）を置き、その治下としました。

享保二十年（一七三五）、南部藩は領内を三十三通りに整理し、大槌通り大槌代官所の管轄は二十三カ村で、山田地方は船

越・織笠・轟木・下山田・上山田・飯岡・大沢の七村。豊間根・石峠・荒川の三村は従来ど

おり宮古通り宮古代官所の管轄となりました。代官所制度は明治二年までの二百三十七年間も続きました。

明治二年、山田地方の十カ村は盛岡県に属し、同四年には江刺県、同四年十二月には改正盛岡県に属し、同五年には盛岡県が岩手県と改称されました。

明治九年には、上山田村と下山田村が合併して山田村に、織笠村と轟木村が合併して織笠村となりました。同十二年、閉伊郡を西・南・東・中・北の五つに区分し、山田地方の八カ村は東閉伊郡の管轄になりました。

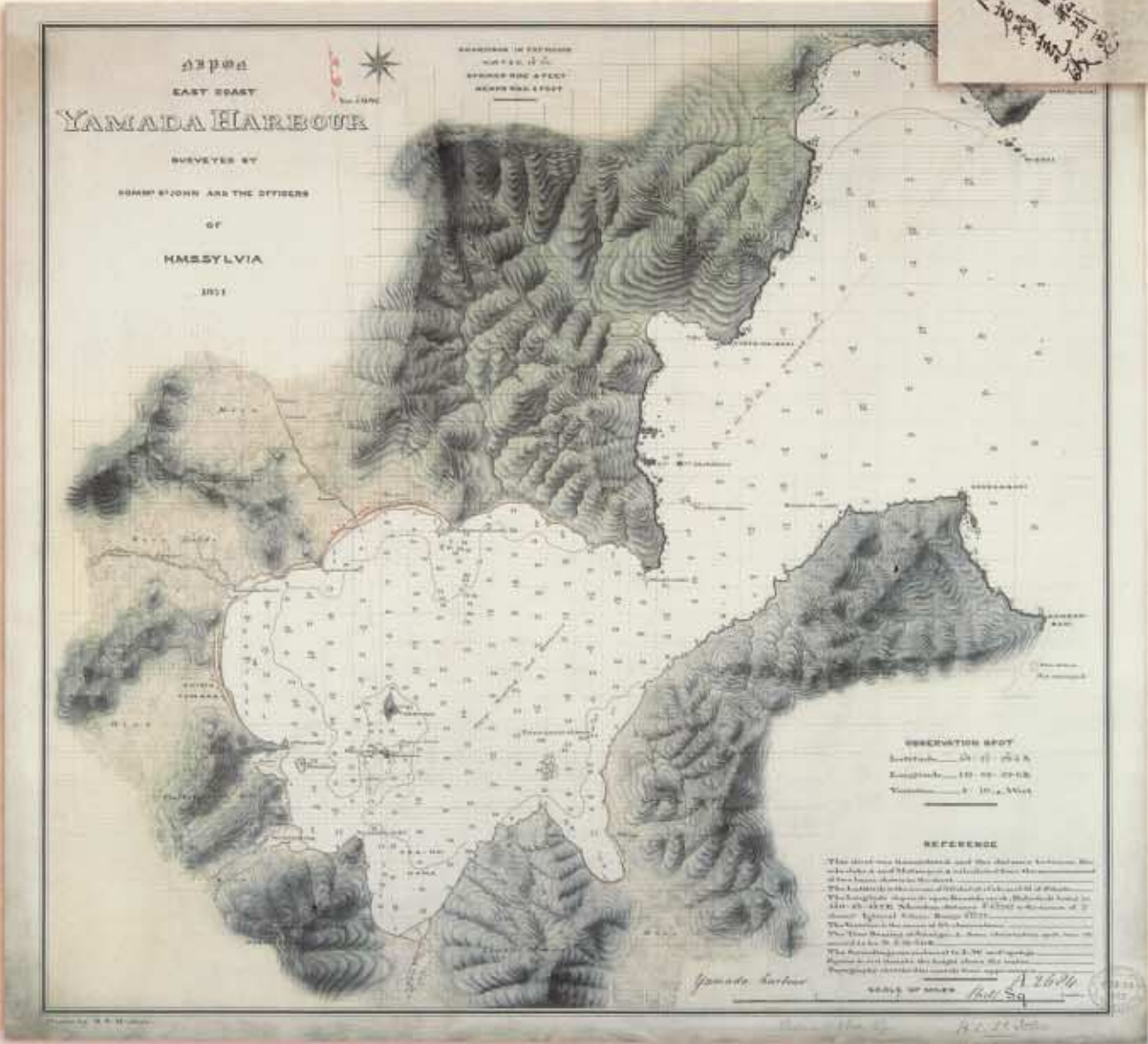
明治二十二年、市町村制の施行により、荒川村、石峠村、豊間根村が合併して豊間根村に、山田村と飯岡村が合併して山田町となり、山田地方の一町四カ村は、同三十年四月に下閉伊郡下の管轄となりました。

当時の集落や町並みを絵図などからうかがうことができます。



南部領内図・正保国絵図控図（江戸時代）＝盛岡市中央公民館所蔵＝幕府に提出した南部領内図（正保国絵図）の控図（縮図）。村の名称や街道などの情報が詳細に記されているのは、交通路の把握が重要視されていたためである。山田湾の中心には寛永20年（1643）に入港したオランダ船プレスケンス号が描かれている

山田浦之図（江戸時代末期）＝岩手県立博物館所蔵＝佐々木藍田が書いた山田湾周辺の絵地図。近代化による港湾整備が進む以前の山田湾の様子や、当時の街道を知ることができる。船越の中心地が前須賀にあったことが分かる



山田湾の海図・複製品（明治4年）イギリス艦シルヴィア号が明治4年に山田湾を訪れて測量したものの。海図には海岸線や水深のほか、山の形状なども記され、帆船の入港に必要なデータがそろっている。また当時の町並み、川、水田、畑も記されていることから、飲料水や食料などの補給も可能であり、入港に最適な湾だったことが分かる



▲根滝漁場鮪定置網組（明治45年ころ）根滝漁場に鮪定置網の経営権のある組の大謀と漁師の記念写真と思われる。明治35年に漁業法と漁業組合規則が施行され、漁業の近代化が進んだ

■主な出来事

元号（西暦）	主なできごと
明治22年（1889）	市町村制が実施され、飯岡・山田の2村、豊間根・石峠・荒川の3村がそれぞれ合併し、山田町、豊間根村、織笠村、船越村、大沢村の1町4村となる
明治24年（1891）	山田郵便局を山田郵便電信局と改称し、電信事務を開始
明治29年（1896）	三陸大津波で甚大な被害
明治37年（1904）	東京湾汽船会社所属の汽船が三陸海岸を就航
明治41年（1908）	三陸汽船株式会社が設立。汽船が宮古一塩釜間を就航



▲祝日の日（明治末期～大正初期）通り沿いの家々は2階建てで、軒に国旗が掲げられ、子供たちも晴れ着で着飾っている。現在の国道45号、中央町である



▲織笠村の運動会（明治末期）織笠川河口で行われた運動会。右上には昆多漁業部の棧橋が見える

▶織笠橋の渡り初め（明治末期～大正時代）現在の橋より上流側に架けられた



三陸汽船が就航

明治後期、東京湾汽船（株）の汽船が本県沿岸を運航していたが、経営主体が県外であり、さまざまな制約もあって沿岸地域の住民にとって不便でした。明治四十一年、沿岸地域の要望により、釜石製鉄所長横山久太郎を社長に資本金三十万円（地元資金九〇％）で三陸汽船が設立され、木造貨客船東北丸など四艘を建造。宮古と塩釜との間にある主要港に寄航し、山田港でも多くの人々が利用しました。山田から宮古までは約二

時間で結ばれました。三陸汽船は沿岸航路だけでなく東京、北海道航路と発展し、明治四十四年、東京湾汽船は権利を三陸汽船に譲り撤退しました。大正、昭和と三十年間にわたり産業・経済・文化に果たした三陸汽船の役割は大きいものでした。しかし、国鉄山田線の全線開通により、汽船の利用客は激減。戦時体制の強化に伴い、昭和十八年栗林商船に吸収合併され、船は徴用船となって歴史の幕を閉じました。

山田町合併
50周年記念企画
History
of Yamada town

明治



▲庭先でくつろぐ（明治末期）雑貨屋の店先でビールを飲んでいる。店の棚にはマッチや駄菓子が並んでいる

主な出来事

元号(西暦)	主なできごと
大正6年(1917)	大槌水力電気(株)より配電を受けて山田町に電燈がともる
大正9年(1920)	第1回国勢調査を実施(1町4村の人口13,713人)
大正10年(1921)	国鉄山田線の工事が始まる
大正12年(1923)	山田町に電話が架設
大正13年(1924)	山田町大火事
大正14年(1925)	宮古・山田間を客馬車が運行



▲三本小松道の開削(大正時代) 山田村と織笠村の境の峠は、かつては交通の難所であった。鞭牛和尚の道開削碑があったといわれる。江戸時代の古文書には「坂板峠」などと書かれている

▼蓬萊橋(大正初期) 関口川河口に架け替えられたばかりの蓬萊橋



▲大浦のイルカの水揚げ(大正2年) 大正2年、大浦地区ではイルカが大漁、地区民総出で捕獲、解体作業に当たった。波打ち際にイルカの血で赤く染まったという



▲山田自動車合名会社(大正12年ごろ) 山田自動車合名会社は大正12年ごろに発足。山田一宮古間を約1時間で結ぶ定期自動車を運行した。写真の車はシボレーで、ナンバーの岩6は県内6番目に登録されたことを意味する



◀八幡宮祭りのにぎわい(大正中期) 9月15日の祭りではみこしが渡り、各種の踊りが通る。写真は消防団によるはしご乗りである



▲電話架設工事(大正12年ごろ) 大正12年、山田に初めて電話が架設、使用開始された。これは電話線工事の様子である



◀山田の市日(大正初期) 藩政時代から山田の三日町(現在の中央町)では、3日、13日、23日に市が開かれた。市日には雑穀、魚類、野菜、果物、小間物などの出店が並んだ

▶山田町役場(大正末期)「鐘の名所」といわれた御蔵山上の役場庁舎。時報として鐘を鳴らした



大正六年、大槌水力電気(株)が設立され、そこから配電を受けて山田地方に初めて電燈がともされました。
大正七年の山田町の点灯戸数は五百五十六戸(街灯数四十一灯)、船越村二百四戸(同二十灯)、織笠村九十六戸(同十九灯)、大沢村百十戸(同十四灯)。豊間根村には昭和二年に電燈がともされました。
大正十二年には、山田郵便局が電話交換事務を開始、山田町の電話加入者は百人でした。

本町に電燈がともる



荒川の開田事業（昭和13年）荒川地区の開田工事は、昭和13年から始まり、昭和24年10月に100%の開田を完了した



昭和の三陸地震津波の惨状（昭和8年）川向町から境町方向を望んで撮影。家屋などは流され電柱だけが残っている



▲スルメ干し作業（昭和10年ころ）水揚げされたスルメは一家総出で割り作業を行い、よろいに掛けられた。シーズンには400トンの水揚げがあった



旧船越中学校のバレー大会（昭和27年）当時の女子のスポーツの服装は40年代前半まで続いた▶



山田線開通記念祝賀会（昭和10年）山田線宮古一山田間の開通を記念し、11月17日に祝賀会が開催され、記念品として鉄瓶が配られた▶

国鉄山田線が開通

大正九年、原内閣の時、盛岡―山田間鉄道敷設案が貴族院を通過、総工費二千四百二十万円で、翌十年十月に国鉄山田線は盛岡から着工しました。昭和十年に国鉄山田線の津軽石・豊間根・陸中山田が開通し、十一年には織笠、岩手船越が開通しました。十四年九月十

七日には釜石までの全線（一五七・五キ）が開通。着工から実に十九年の歳月が流れていました。直通列車で六時間ほどで結ばれ、盛岡と沿岸線を結びたいという悲願が達成されました。山田線の開通は沿岸の産業、文化を興し、しかも高速交通時代を迎えた一大改革でした。



山田町役場（昭和10年ころ、御蔵山）



▲魚粕の出荷（昭和初期）大浦地区の出荷風景。イワシを原料とした魚粕は肥料として製造され、三陸汽船で塩釜に運ばれた



▲出征兵士の見送り（昭和18年）出征が決まった兵士は、それぞれの町村の神社に武運長久を祈願した後、親族などに駅まで見送られて戦地へ赴いた

開田作業に加わった



佐々木キノエさん（荒川・81歳）＝右＝村上チヨミさん（荒川・85歳）

【佐々木】私が小さかった昭和10年ごろは、荒川地区には田んぼは少なく、1町（約）ほどでした。畑では稗や麦などの雑穀を作り、米はあまり食べることができませんでした。昭和13年、小学校を卒業して間もなく荒川の開田事業が始まり、おじいさんに連れられて作業に加わり、19歳まで働きました。体も小さく、力もなかったので、泣きながら働きました。機械はもちろん一輪車も無い時代で、すべてが手作業でした。本当につらかったです。

【村上】18歳から21歳まで開田作業に加わりました。山から田んぼに運ぶための赤土を馬車に積んだり、畔を踏み固めたり、モッコで土を運んだりしました。話にならないほどつらかったです。男性は軍役に召集されたり、出稼ぎに出たりして男手が足りなく、多くの女性が働きました。このような苦労があって荒川、山田の発展があります。開田によりできたこの素晴らしい100町（約）の田んぼは山田の財産。いつまでもこの風景は残してほしいですね。

主な出来事

元号（西暦）	主なできごと
昭和元年（1926）	宮古・山田間を定期自動車が運行
昭和8年（1933）	三陸大津波で甚大な被害
昭和10年（1935）	国鉄山田線の盛岡―陸中山田間が開通
昭和11年（1936）	国鉄山田線の陸中山田―船越間が開通
昭和22年（1947）	山田町大火事
昭和23年（1948）	アイオン台風で被害
昭和25年（1950）	県北バスが通る 県立山田病院を開設

主な出来事

元号(西暦)	主なできごと
昭和30年(1955) 3月	山田町、豊間根村、大沢村、織笠村、船越村の1町4村が合併し、新山田町が誕生
昭和31年(1956) 7月	船越保育園を開設
10月	県立山田高校校舎が関谷地区に新築落成。役場庁舎を旧山田高校校舎へ移転
昭和32年(1957) 4月	職業補導所を開設
7月	十二神山に自衛隊が駐屯
昭和33年(1958) 10月	大浦小学校校舎が新築落成
昭和34年(1959) 2月	十二神基地米軍解散
11月	大釜崎ロラン局が開局



▲荒神社の祭典(昭和30年代)「ダンベ」という木製の船。現在よりも船の数も多く、にぎやかであった



▲鯨の解体(昭和33年ころ)日東捕鯨株式会社に水揚げされたシロナガスクジラ。この後解体された



▲紙芝居風景(昭和30年代)娯楽の少なかった当時の子供たちにとっては、この紙芝居は数少ない娯楽だった



七夕飾り(昭和32年ころ、中央町)

山田町合併 50周年記念企画 History of Yamada town

昭和30年~34年

1町4村が合併し 山田町が誕生



▲市日風景(昭和30年代、中央町)



▲山田町役場(昭和31年)役場庁舎を旧山田高校校舎(場所は現在の町役場)へ移転



▲第1回山田町議会定例会(昭和30年)新山田町が誕生して初の予算が審議された。一般会計の予算額は6,939万円だった

サンマ漁船に乗った

あの
時の
あの日



のぶ
お 佐々木 信夫さん
(境田町・73歳)

昭和30年代のサンマ漁船の解禁日はとてもにぎやかでした。ちょうど昭和32年ごろには、推されて船頭(漁労長)になった時で、とても印象に残っています。山田漁港には約40隻、最盛期には50隻以上が夜明け前からエンジンをかけて待機し、岸壁は船で埋まりました。当時はまだ木造船で、40~50トンのくらいの大きさだったと思います。漁船には大漁旗が掲げられ、見送りに来た大勢の町民と船との間には5色のテープも渡され、とても華やかでした。各船からは音楽がガンガン鳴り、今でいう秋祭りのようなにぎわいでした。午前6時ごろには、船長が出漁許可証を受け取ってテープを引きながら一斉に出航。これ以上エンジンが回らないほどの全速力で走りました。

小学校卒業と同時に家業の漁業を継ぎ、67歳まで漁師一筋で頑張ってきましたが、あのころは浜に活気がありました。あの時のような活気が戻ってほしいものです。



▲サンマ船の出航(昭和32年ころ)出航当日は朝早く壮行式が行われ、銅鑼の音も高らかに大漁旗が朝風になびかせながら出航した。岸壁には大漁と無事の航海を祈る町民が集まり、5色のテープで見送った

合併当初の財政再建

一町四カ村が合併して最初の決算(昭和二十九年度)は予想以上の赤字となり、赤字額は主要財源(税収入と地方交付税の合計額)の約五割に当たるものでした。主な要因は、財政需要の増加にもかかわらず地方公共団体に対する財源が伴わなかったことが挙げられます。このような状況は全国的であり、昭和二十九年度末には全国の市町村の約四割がいわゆる赤字団体となりました。

本町では地方財政再建促進特別措置法の適用を受けて、三十七年度から三十七年度までの財政再建計画を立て、財政再建団体として財政の建て直しに当たりました。財政の再建を図りつつ自治体としての本質的活動を保つことは極めて困難でしたが、財政再建期間中は、町税の増税は行わず、あくまでも消費的経費の節減に努めました。国や県の援助もさることながら町民の協力もあり、チリ地震津波災害の最大の試練を乗り越えて三十五年度には赤字を解消。計画より二年短縮して自治体として自立しました。

定期船「おおうら」で通学する船越中学校の生徒（昭和39年、浦の浜）
 ≡元山田町在住・及川寿郎さん撮影≡



▲町営ブロックセンター
 (昭和36年ころ、豊間根)
 住宅不足を解消するため
 漁民アパート建設に使う
 ブロックを製造した

山田町合併
 50周年記念企画
History
 of Yamada town

昭和35年～39年

定期船で通学した

あの時
 あの時



小林 剛士さん
 (大浦・54歳)

当時、浦の浜にあった船越中学校に定期船「おおうら」で3年間通いました。船はいつも混んでいてとてもにぎやかでした。学校に行くときは毎日船で通いましたが、帰りは部活動で遅くなる事が多く、友達と遊びながら大浦街道や、山を越えて帰りました。運動に自信のある生徒は、棧橋に船が接岸する前から棧橋に飛び下りる生徒もいて、誰が先に陸上に着くか棧橋の端まで競争していました。冬場の雪が多いときも飛び跳ねていたのでは考えられませんね。棧橋の上ではふざけ合って、棧橋から落ちる生徒もいました。夏場には棧橋の脚に板を貼り付けて、水泳部はターンの練習や棧橋の上から飛び込みの練習をしていました。大雪の日に船が来ないという情報が入り、ひざまである雪の中を歩いて帰っていったら大浦崎で追い越された苦い思い出もあります。平成9年には定期船「おおうら」も廃止になり残念です。あの時がとても懐かしいですね。



▶わかめの口開け(昭和39年、前須賀海岸)
 ≡元山田町在住・及川寿郎さん撮影≡



岩手船越駅に停車したSL(昭和39年)
 ≡元山田町在住・及川寿郎さん撮影≡

■主な出来事

元号(西暦)	主なできごと
昭和35年(1960) 5月	チリ地震津波が襲来
昭和36年(1961) 4月	織笠、大沢の役場支所を廃止
5月	三陸フェーン災害
昭和37年(1962) 4月	陸中山田駅が改築落成
昭和38年(1963) 11月	織笠保育園を開設
12月	NHK、IBCのテレビ中継所が開所
昭和39年(1964) 4月	新住居表示制度により旧山田地区の土地の名称を変更



チリ地震津波の
 惨状(昭和35年、
 北浜町) ▶

チリ地震津波が襲来

山田町合併五周年を迎え、財政再建団体からの脱却に向けて走り出した矢先の昭和三十五年五月二十四日、チリ地震津波が襲来。一朝にして十二億九千三百万円の貴重な財産が失われました。昭和八年の三陸津波から二十七年が経過し、津波の記憶を忘れかけているときでした。町では直ちに対策本部を設置。町議会緊急協議会を招集し、応急対策に当たりました。通信、交通の断絶という最悪の条件の中で、大釜崎ロラン局から茨城県波崎局、さらに海上保安部、県警本部を経由して県対策本部との連絡に成功しました。次に鉄道の復旧を機に陳情、各種団体、学校、自衛隊の出動を得て、応急対策は完了しました。

就職列車に乗った

あの
あの
時日



小原ひろ子さん
(長崎・56歳)

昭和40年3月、船越中学校卒業と同時に集団就職のため、陸中山田駅で就職列車に乗りました。駅には母や同級生が見送りに来てくれました。中学を卒業したばかりで親と離れるのはつらかったです。ベルが鳴り列車が動き出したとたん涙が出てきて、窓から身を乗り出して「かあさん」と叫んだのを憶えています。釜石、花巻経由で列車に揺られて上京しましたが、列車の中は静まり返っていました。上野駅に着いて外に出ると、旗を持った各企業の担当者が立っていて、この時もう学生ではないことを実感しました。NEC相模原工場で、電話交換機の配線部品の組み立て作業をしましたが、船越中学校の女子の同級生4人も同じ工場働いていたので心強かったです。都合により3年半働いて山田に帰ってきましたが、集団就職をともにした高知と栃木に住む2人の同級生とは今でも連絡を取り合う中で、心の支えにもなっています。

就職列車(昭和40年、陸中山田駅)
＝元山田町在住・及川寿郎さん撮影＝



山田町合併
50周年記念企画
History
of Yamada town

昭和40年～44年



市日の風景(昭和44年、八幡町)



豊間根中学校で開かれた馬力大会(昭和41年)



▲岩手国体キャラバン隊が来町(昭和44年)

主な出来事

元号(西暦)	主なできごと
昭和40年(1965)	1月 県立山田病院が完成 7月 山田・船越・織笠・大沢の4中学校が統合し、山田中学校に。各校舎の名称が変更
昭和41年(1966)	11月 白石児童館が完成 3月 山田統合中学校第1期工事が完成 8月 豊間根保育園を開設 11月 国民宿舎タブの木荘がオープン
昭和42年(1967)	3月 山田統合中学校第2期工事が完成 9月 山田漁連魚市場が落成 12月 山田中学校新校舎へ移転
昭和43年(1968)	5月 十勝沖地震津波で本町の被害総額5億2,000万円 6月 町立図書館がオープン
昭和44年(1969)	1月 関口児童館が完成 3月 国道45号織笠大橋が完成開通 誘致企業第1号のサンヨーソーイングが操業開始

織笠大橋渡り初め
(昭和44年)



第10回山田町畜産共進会肥育牛の部
(昭和41年、豊間根)



▲田の浜婦人消防隊を結成(昭和40年)



▲山田中学校織笠校舎閉校記念部落運動会(昭和42年)

町内4中学校が統合

昭和四十年七月一日、大沢、山田、織笠、船越の四中学校が統合し、町立山田中学校が誕生しました。
山田中学校の統合については、昭和三十八年八月に山田統合中学校促進委員会が発足。四十年四月には同委員会が町長に統合中学校設置について答申しました。翌五月に町議会で四中学校の統合を議決。六月に各校で閉校式が執り行われ、二十年の歴史に幕を閉じました。
新しい校舎が建設されるまでは、廃止された中学校の校舎を引き続き使用。それぞれの校舎

の名称は、山田中学校山田校舎、船越校舎、織笠校舎、大沢校舎、外山校舎と改称されました。
七月一日、統合して誕生した山田中学校の開校式は山田校舎で行われ、全校生徒千五百九十八人、PTA関係者など来賓五十人が出席。当初、式の会場は校庭の予定でしたが、あいにくの雨のため、講堂で二回に分けて行われました。
新校舎の建設工事は四十一年に着工。第三期工事で本校舎が完成するとともに新校舎に移転し、実質統合されたのは四十二年十二月二十五日でした。



山田町合併
50周年記念企画
History
of yamada town

昭和45年～54年

▲昭和46年当時の飯岡地区（現在の長崎地区）の風景
ほぼ中央部にはこんもりとした山「イジマ」があった。
場所は現在の長崎二丁目1番23号に当たる

■主な出来事

元号（西暦）	主なできごと	
昭和45年（1970）	3月 山田電報電話局が開局 山田小学校関口分校が閉校 9月 皇太子ご夫妻来町 11月 町章を制定	
昭和46年（1971）	8月 「第1回はたちのついで」を開催 11月 NHK山田豊間根テレビ中継放送所が開所	
昭和47年（1972）	4月 さくら幼稚園を開園 8月 本町出身の湊義雄選手（ボート）が ミュンヘン五輪に出場	
昭和48年（1973）	4月 わかば幼稚園を開園 10月 町民グラウンドが完成	
昭和49年（1974）	4月 山田町社会福祉憲章条例を制定 8月 山田町役場新庁舎が完成	
昭和50年（1975）	8月 常陸宮ご夫妻が四十八坂展望台にお立ち寄り 10月 山田町合併20周年記念、庁舎落成記念 式典を開催。町民憲章、町の花木鳥 「ハマナス」「スギ」「ウミネコ」を制定	
昭和51年（1976）	11月 町民歌を制定 昭和52年（1977）	10月 大冷害で農作物の被害総額4億1,000 万円 3月 スルメイカが大不漁 8月 県立山田高校定時制が29年の歴史に幕 8月 県立陸中海岸青年の家がオープン 9月 第1回北日本マラソン陸中山田大会を 開催
昭和53年（1978）	7月 町スポーツ少年団本部を結成	
昭和54年（1979）	5月 武徳殿が完成 10月 台風20号の被害総額6億2,600万円 12月 B & G 海洋センター（体育館、艇庫） が完成	

「イジマ」で遊んだ
あ
あ
の
時
日



白土 盛さん
(境田町・67歳)

長崎地区は、土地区画整理前はすべて田んぼで、きれいな水が流れていました。家が建っていなかったため駅からは畑地区がすべて見えました。現在の山田南小学校の場所に新築された山田中学校の第1回卒業生で、旧校舎（現在の町役場付近）から、山伝いに生徒全員で机を運んだ覚えがあります。ほぼ中央部にはこんもりとした山「イジマ」があり、学校の帰りは「イジマ」に寄って、かくれんぼや周りを駆け回って遊びました。農家の人が田んぼ仕事の休憩場所として休んでいる光景もよく見られました。大昔はこの地区は海であり、「イジマ」がぼっかりと浮かんでいたという話も聞きます。当時から、現在のように住宅地になるとは想像もつきませんでした。時の流れを感じます。



▲国体炬火リレー結団式（昭和45年）



▲町章制定・山田中学校落成記念式典（昭和45年）



▲ホタテの出荷作業（昭和47年ころ、大沢）



▲役場庁舎建築工事（昭和49年）



▲第2回北日本マラソン陸中山田大会（昭和53年）

町のシンボルを制定

昭和四十五年十一月二日、町の発展を象徴する町章が制定されました。町章の制定については、四十年の山田町合併十周年の際、全国から町章のデザインを募集しましたが、採用直前で取り下げた経緯もあり、それまで本町は町章のない町でした。このことから、四十五年九月には岩手国体記念として、町民のみを対象に町章のデザインを募集。応募のあった八十二点の中から近藤隆志さん（当時Ⅱ田の浜・三）の作品（三六参照）が採用されました。五十年十月一日には、より美しく明るい郷土山田町の実現を念願した五つから成る町民憲章と、町の花・木・鳥「はまなす」「すぎ」「うみねこ」が制定され、続いて十一月一日には町民歌が制定されました。町の花・木・鳥と町民歌については、山田町合併二十周年を記念して、町民や町出身者から作品などを募集し、多数の応募の中から審査会で決定したものです。これにより町のシンボルがそろいました。



▲県生涯スポーツ推進中央大会、第16回町民体育祭（昭和62年）

■主な出来事

元号（西暦）	主なできごと
昭和55年（1980）	4月 大浦保育園を開設 7月 本町出身の鈴木善幸衆議院議員が第70代内閣総理大臣に就任
昭和56年（1981）	3月 新図書館車「はまなす号」が発進 4月 山田町斎場が完成
昭和57年（1982）	3月 山田小学校が閉校 4月 山田南、山田北両小学校が開校 9月 鈴木善幸総理大臣が郷土入り
昭和58年（1983）	3月 織笠小学校轟木、外山両分校が閉校 4月 轟木小学校が開校 5月 飯岡土地区画整理地内の住居表示を実施、新町名「長崎」 10月 山田郵便局新局舎が完成 県立山田高校新校舎が完成
昭和59年（1984）	4月 山田健康音頭を制定 6月 防災行政無線の放送開始 中央コミュニティセンターが完成 7月 本町出身の瀬川正義（ボクシング）、牧野孝喜（馬場馬術）両選手がロス五輪に出場
昭和60年（1985）	11月 アワビ漁が3年間全面禁漁 10月 山田町合併30周年記念式典を開催。千葉県山田町、長野県上山田町と姉妹都市締結。タイムカプセルを埋設
昭和61年（1986）	4月 住民記録のオンラインシステム業務を開始 中央公民館が完成 5月 陸中海岸山田八景が決定 6月 「ふる里山田同郷の会」が誕生 7月 船越家族旅行村がオープン
昭和62年（1987）	11月 アワビ漁4年ぶりに解禁。58年の2.4倍の漁獲量
昭和63年（1988）	3月 IWCによる商業捕鯨の規制とともに山田の捕鯨の歴史に幕 4月 マリンパーク山田がオープン 9月 本町出身の瀬川設男選手（ボクシング）がソウル五輪に出場

▶山田町合併30周年を記念してタイムカプセルを埋設（昭和60年）



◀直径118㌢、内容積800㌢のタイムカプセル

あの時の



タイムカプセルのメッセージを書いた

伊藤 尚生さん
（大沢・35歳）

山田中学校3年の時、生徒会長だったことから、担任の先生からメッセージを書くように頼まれました。誰に宛てて書いたのか忘れましたが、当時の学校の様子を書いた記憶があります。当時は何のために書いたのかわかりませんでした。役場に就職して初めてタイムカプセルの存在に気づきました。昭和60年の合併30周年の記念行事の一環として行ったもので、カプセルの中には当時の生活の様子が分かるあらゆるものが入っているそうです。開封は2035年3月1日とのこと、あと30年後になりますが、町の様子はどのように変わっているのでしょうか。その時まで山田の豊かな自然が残っていてほしいですね。そして開封する時には立ち会って、50年前の中学生当時に振り返ってみたいものです。



鈴木善幸総理を一目見ようと役場前（旧山田小学校敷地）に町民8,000人が集まった



鈴木善幸総理の郷土入り（昭和57年）



▲マリンパーク山田がオープン（昭和63年）

山田町合併50周年記念企画 History of Yamada town

昭和55年～63年



▲第1回山田ビーチフェスティバル（昭和56年、前須賀海水浴場）



▲「ふる里山田同郷の会」設立総会（昭和61年、東京都）

鈴木総理が郷土入り

昭和五十五年七月に本町出身の鈴木善幸衆議院議員が第七十代内閣総理大臣に就任して以来、町民の待望久しかった総理の郷土入りが五十七年九月六日、ようやくかなえられました。祝賀大会会場となった旧山田小学校跡地には、総理の晴れ姿を一目見ようと、到着予定の何時間も前から詰め掛けた八千人の町民で、広い会場は埋め尽くされました。総理一行は沿道での多くの歓迎に応えるため徐行し、約一時間遅れて会場に到着しましたが、総理の乗った車が会場に現れると大きな歓声と万歳の声が沸き起こりました。祝賀大会では、木下禎治町長が歓迎のあいさつを行った後、総理に山田町名誉町民第一号の称号が贈られました。祝賀大会終了後には旗行列が行われ、児童生徒や各種団体など大勢の人と小旗の波が町内を行進。その後同会場でも祝賀芸能大会が開かれ、町は祝賀ムード一色に染まりました。

元号(西暦) 主なできごと

- 平成8年(1996) 2月 第1次ジュニア大使友情使節団派遣事業で中学生をオランダに派遣
- 3月 第1回一括研修派遣事業で町民をオランダに派遣
- 4月 津波観測システムの運用を開始
- 平成9年(1997) 5月 第41回岩手県植樹祭を船越家族旅行村で開催
- 定期船「おおうら」が廃止され、路線バス運行に
- 10月 全国豊かな海づくり大会で天皇后両陛下下行幸啓、山田町役場で昼食、ご休憩
- 平成10年(1998) 3月 柳沢北浜地区土地区画整理事業に着手
- 6月 「国際交流フェスティバル'98」を開催
- 12月 白石児童館に代わる轟木児童館が完成
- 平成11年(1999) 1月 27年ぶりに冬の成人式を開催
- 3月 「マリンパーク山田」が11年間の営業に幕
- 8月 「ふれあいパーク山田」が「道の駅」に指定
- 10月 NHKホールで開かれた第51回全国漁港大会で大沢小学校児童が全校表現劇「海よ光れ」を上演
- オランダ王国ザイスト市のクリスティック・カレッジ・ザイスト校(CCZ)友情訪問団が来町
- 11月 織笠川「鮭まつり」で本州初の川でのサケ一本釣りを実施
- 平成12年(2000) 5月 オランダ王国ザイスト市と友好都市締結
- 6月 大沢地区漁業集落環境整備事業・終末処理場「大沢排水処理場」が供用開始
- 7月 本町出身のプロボクサー瀨川設男選手が日本スーパーバンタム級チャンピオンに。バンタム級に続き2階級制覇
- 8月 船越地区公共下水道・終末処理場「クリエイトピュアふなこし」が供用開始
- 12月 山田中学校吹奏楽部がオランダ・アムステルダム市のコンサートヘボウホールで開かれた「日蘭交流400周年記念ジャパナイト」に出演
- 平成13年(2001) 5月 「山に広葉樹を植える運動」第1回植樹祭を開催
- 8月 町のキャッチフレーズが「響きますひと・海・森のハーモニー」に決定
- 12月 総合窓口業務がスタート
- 平成14年(2002) 8月 三陸縦貫自動車道「山田道路」が開通
- 9月 本町出身の阿部弘幸選手がプロボクシング日本ミニマム級で王座に
- 鈴木俊一衆議院議員が環境大臣に就任
- 交通死亡事故ゼロ1,000日を達成
- 平成15年(2003) 5月 公共下水道(山田処理区)事業に着手
- 三陸南地震で本町の被害総額1億2,500万円
- 8月 長野県上山田町と姉妹都市を発展的に終結
- 平成16年(2004) 4月 役場の機構改革を実施し、16課制を11課制に統廃合
- 7月 山田町名誉町民の鈴木善幸元内閣総理大臣が逝去
- 10月 山田町堆肥センターが完成
- 平成17年(2005) 4月 「房の沢IV遺跡」の出土品が県指定文化財に
- 9月 「喜寿を祝う会」を開催
- 10月 山田町合併50周年記念式典を開催
- 山田町・ザイスト市友好関係締結5周年記念祝賀会を開催



▲ふれあいパーク山田がオープン(平成11年)



▲大沢小学校児童が全校表現劇「海よ光れ」をNHKホールで上演(平成11年)



▲オランダ王国ザイストと友好都市を締結(平成12年) 締結書▶



▲三陸縦貫自動車道「山田道路」が開通(平成14年)



鯨と海の科学館オープン(平成4年)



三陸海の博覧会山田会場オープニングセレモニー(平成4年)



定期船「おおうら」が廃止(平成9年)



天皇后両陛下下行幸啓(平成9年)

山田町合併50周年記念企画
History of Yamada town

平成元年~17年

■主な出来事

元号(西暦) 主なできごと

- 平成元年(1989) 5月 町民総合運動公園野球場が完成
- 平成2年(1990) 8月 第44回県中学校野球大会で山田中学校が初優勝
- 9月 青森県平賀町と「友好親善都市」締結
- 大浦地区で本町初の下水道システムが稼働
- 平成3年(1991) 12月 沿岸初の屋内スケート場が浦の浜地区にオープン
- 平成4年(1992) 6月 「山田の海を守る会」を設立
- 7月 鯨と海の科学館がオープン
- 三陸海の博覧会が共催会場として開幕
- 平成5年(1993) 7月 プレスケンス号山田港入港350周年記念事業を開催
- 平成6年(1994) 10月 三陸縦貫自動車道山田道路「船越トンネル」が貫通
- 平成7年(1995) 1月 公共下水道(船越処理区)事業に着手
- 4月 山田消防署新庁舎が完成
- 8月 日本・オランダ王国親善少年サッカー交流大会を開催
- 9月 アメリカ・ワシントン州シアトル市で境田虎舞が公演

オランダとの交流

江戸時代の寛永二十年(一六四三)、山田湾にオランダ船ブレスケンス号が入港した史実から、平成五年に「ブレスケンス号入港三五〇周年記念祭」が開催され、これを機にオランダとの交流の機運が盛り上がりました。同記念祭に出席したオランダ王室顧問の紹介で、平成七年にはジュニア大使友情使節団(中学生)をザイスト市に派遣。クリステリック・カレッジ・ザイスト校(CCZ)との交流が始まりました。以後、派遣は毎年実

施され、一般町民による海外研修団もザイスト市を訪問するなど、交流は着実に進展しました。平成十年にはザイスト市長夫妻、翌年にはCCZ訪問団が相次いで来町。友好関係のきずなはさらに強まり、日蘭交流四百年に当たる平成十二年五月、ザイスト市と山田町は友好都市を締結しました。そして今年、山田町合併五十周年記念式典と併せて友好関係締結五周年を盛大に祝い、さらなる交流の推進を誓い合いました。

祝 山田町合併50周年記念式典

祝 山田町・ザイスト市友好関係締結5周年

Tot ere van het 5-Jurig bestaan van de vriendschapsband tussen Yamada en Zeist



平成17年10月23日

半世紀の歴史を礎に

さらなる飛躍を誓う

山田町合併五十周年記念式典は十月二十三日、町中央公民館大ホールで開かれました。一町四村が合併して新山田町が誕生してからの半世紀の道のりを振り返るとともに、さらなる町勢の発展へ向け、町民が一丸となって進む決意を誓いました。

式典には町民や来賓約六百人のほか、友好関係締結五周年を記念し、オランダ王国ザイスト市からの訪問団八人も出席しました。

沼崎喜一町長は、「大きな課題も山積していますが、いかなる危機に遭遇しても町民の英知と町づくりへの情熱があれば、これを解決することを諸先輩の実践を通じて学ぶことができました。再び歴史の大きな転換点に立っている今、これまで体験したことのない急激な少子高齢社会という厳しい環境ではありますが、先人が築き上げてきた山田町の発展を期して、すべての町民の皆様とともに町づくりへの決意を新たにしたい」と式辞を述べました。

続いて佐々木良一町議会議長が「町民の皆さんと連携を一層強め、

海の青、山の緑を未来永劫まで大切に守りながら、新しい時代にふさわしい山田町として、さらに発展していくよう努力していきたい」とあいさつ。本町と友好関係締結五周年を祝し、オランダ大使館のマリオン・ベニク報道文化部長は、「何世紀もの時を経て、ザイスト市との友好関係が締結され、活発に交流が進められていることは、喜ばしい限りです。お互いの歴史や文化を知り、理解を深め、オランダとの素晴らしい交流が長く続くことをお祈りします」とメッセージを贈りました。

ザイスト市のルドルフ・ブックホーヴン市長はあいさつ(二十五頁)に続き、同市にある障害者施設で作られた色合い豊かな木製のA D O玩具を沼崎町長に贈呈。町



ザイスト市長から沼崎町長にA D O玩具が贈られた

からは本町とザイスト市の友好関係の推進に尽力され、近く市長を退任するブックホーヴン市長に、沼崎町長が感謝状を贈りました。

各分野において町勢の発展に大きく貢献された方々を表彰する記念表彰式では、町勢功労者十一人(自治功労二人、教育功労四人、納税功労二人、産業功労二人、統計功労一人)に対し、沼崎町長が一人一人に表彰状と記念品を手渡しました。引き続き永年勤続表彰五十五人、感謝状四団体、九十人の氏名が披露され、それぞれの受賞者を代表して、佐々木徳友さん(荒川・九)、菊地サカエさん(織笠・七)に感謝状と記念品が贈られました。

続いて、鈴木俊一衆議院議員、県知事代理の山瀬宗光宮古地方振興局長、佐々木俊夫県議会議員、宮古・下閉伊市町村長を代表して熊坂義裕宮古市長、姉妹都市の高岡顯尚千葉県山田町長、友好親善都市の青森県平賀町長代理の中畑雄一助役が祝辞を述べました。

アトラクションでは、山田町第一保育所園児の虎舞、荒川小学校児童の念仏剣舞、山田中学校三年生による合唱が披露され、節目の年を祝う式典に花を添えました。

山田町民歌の作曲者である木村悌郎さん(盛岡市・七)の指揮で町民歌を斉唱し、最後に山田漁業協同組合連合会の阿部金一代表理事会長の発声で万歳三唱。五十年の節目を期に本町の次なる進展に向け、町民と行政が一丸となって、

あいさつ



オランダ王国ザイスト市
市長 ルドルフ・ブックホーヴェン

本日皆さんをお迎えし、そして山田町合併50周年記念をともにお祝いできることは、私にとって非常に誇りであり、大変うれしく思います。私はまた、5年前に山田町と公式的友好関係を結ぶことに喜んで同意しましたオランダ王国にあるザイスト市の市議会や財団法人ホフライスの役員、それから私が以前山田を訪問する際に同行してくれた全員を代表して、お祝いを申し上げます。

私がこの行事へのご招待を受けたことをザイスト市議会に示したとき、彼らは是非そのご招待を受け入れるべきだととても熱心に満場一致で同意しました。

山田町から来た人々とザイスト市の人たちがお会いする時、私の注意を引き付けるものがありました。例えば、クリステリック・リセウム・ザイスト校と山田中学校が交流をした時、会話はすぐに私たちの自治体の類似点や相違点に行き着きます。これらの会話はとても私を楽しませてくれます。たとえ、初めて会ってお互いに何も知らなくても、あなたという人間はとても興味深いものです。これらの出会いや会話を通してお互いから学ぶとすることで、お互いに理解することができるのです。これは素晴らしいことです。

インターネットや衛星放送などの新しいメディアのおかげで、世界は小さくなりつつあります。このグローバルゼーションの結果により、異なった国々の人々と触れ合うことが多くなりました。私たちはさらにお互いに頼りにするようになりました。これは、さらに国々や人々が個別に触れ合うことを可能にしました。最も重要なことは、仲良くできるということです。私たちがお互いの文化を理解し、友好的な関係を築くことができれば、私たちの世界は、よりよいものへと変化するでしょう。私たちはともに戦争のない、飢餓や貧困のない、そして自然や環境に配慮した世界を築き上げることができるのです。

それが近隣の国であろうと、地球の反対側の国であろうと、これは友好関係の絆で結ばれた自治体から得られる非常に大きな利益なのです。

この短い祝賀のご挨拶の終わりに、私が作った素晴らしい日本の伝統の俳句をご紹介します。

山田とザイスト みえざる絆 よりよい相互理解のために
ご静聴ありがとうございました。

半世紀の礎に感謝して

山田町合併五十周年記念表彰式で表彰された方、感謝状を贈呈された方は次のとおりです。
 〈敬称略・順不同〉



町勢功労

自治功労
〔町助役〕
佐々木 すすむ
(豊間根・75歳)

自治功労
〔町議会議員〕
岩間 熊三
(大浦・81歳)

教育功労
〔婦人会長〕
小川 タツ
(中央町・86歳)

教育功労
〔町教育長〕
木村 悌郎
(盛岡市・73歳)

教育功労
〔町教育長〕
佐々木 幹雄
(船越・74歳)

納税功労
〔納税組合長〕
佐藤 大作
(田の浜・70歳)

納税功労
〔納税組合長〕
佐々木 鋼文
(長崎・73歳)

教育功労
〔婦人会長〕
昆野 昭子
(織笠・74歳)

統計功労
〔統計調査員〕
坂本 久一
(織笠・74歳)

産業功労
〔飲食業の普及〕
三浦 聡榮
(中央町・69歳)

産業功労
〔飲食業の普及〕
横田 孝司
(中央町・74歳)

永年勤続

▼阿部勲、沼崎秀男(以上/農業委員) ▼貫洞征功、鈴木正道(以上/固定資産評価審査委員) ▼大川洋三(国保運営協議会委員) ▼相蘇正三郎、上館忠孝、白土ミチル、長崎百合子、山根ノブ子、湊光夫、岩洞正雄(以上/行政区長) ▼山崎吉平、雪入和三(以上/行政区長・納税貯蓄組合長) ▼佐藤仁志、清水誠勝(以上/町史編さん委員) ▼長谷川忠(文化財保護審

感謝状

議会委員) ▼佐藤博、尾形繁治、勝山君雄、佐々木三由、佐々木豊、佐々木徳友、大町富子、齊藤信吉、箱石常藏、福士一郎、横田輝子、堀合実、佐藤惣平、中村眞一、沼崎トキ子、坂本充、佐々木光子、鈴木文隆、山崎喜六(以上/納税貯蓄組合長) ▼中村きの、川端ミヨ、佐々木幸子、堀合菊男(以上/福祉推進員) ▼千代川リヤ子、川村カメ子、佐々木房子、佐藤照男、豊間根秀子、武藤いく子、越田恵子、濱登恭子(以上/統計調査員) ▼前川イツ子(町税嘱託徴査員) ▼前川イツ子(町税嘱託徴査員) ▼佐々木良一郎(町議会議員) ▼昆野壽雄、豊間根章一(以上/町助役) ▼白野達雄、木戸脇英一、石山勝博(以上/町収入役) ▼田代省平(固定資産評価審査委員) ▼佐々木徳治、中釜昭子、福士若



参加者全員で万歳三唱を行い、町のさらなる発展に向け、新たな一歩を踏み出しました

子、赤城幸男、阿部逸郎、貫洞正子、佐藤恵子、福士玲子、貫洞昌子、飯岡悦子、千葉保美、後藤清郎、昆敬子、澤田ツマ子、熊谷志郎、佐藤清悦、蛭名勝男(以上/行政区長) ▼鈴木幸男(町有林巡視員) ▼宮昭三郎(公民館長・社会教育指導員) ▼木下善三郎(町史編さん資料調査員等) ▼和泉信子、佐々木啓子(以上/社会教育指導員) ▼佐藤葵(鯨と海の科学館指導員) ▼内館利、湊サト、菊地良子(以上/職業指導所指導員) ▼佐々木茂、佐々木正幸、佐藤貞男、尾形英雄、鈴木惣藏、佐藤静子、横田洪、阿部哲夫、小川信行、佐々木一巳、館洞キク子、花崎タキ、山崎欣一(以上/納税貯蓄組

合長) ▼阿部初代(水道料金徴収員) ▼武藤昇(町税嘱託徴収員) ▼尾形光平、大川重雄、内館順子、内館良子、中村菊代、小林キネ子、山崎勲(以上/統計調査員) ▼澤田サチ(母子福祉協議会長) ▼佐々木禮子、太田隆一、箱石紅子、湊優子、菊地久美子、佐々木早乃、山崎郁子(以上/福祉推進員) ▼(故)山口ルリ子、芳賀信子、鈴木協子、佐々木アイ子、五十嵐マリ子、坂本カヨ子、巽岩正子(以上/食生活改善推進員連絡協議会理事) ▼飯岡千代子、岩橋コウ子、佐藤素子、佐藤キマ、中屋ハルエ、澤田ミキ、福浦征子、菊地サカエ(以上/会食・配食ボランティア) ▼水村咲子(成人式への寄付に対

して) ▼鈴木照夫(交通指導員) ▼佐々木吉雄、千葉克美(以上/防犯協会役員) ▼館洞静男(町民総合運動公園管理人) ▼飯岡多見男(北浜防災センター管理人) ▼和田宏(中央公民館管理人) ▼佐藤義英(役場宿直代行員) ▼山崎盛富(武徳殿管理人) ▼横田敬典(山田漁村センター管理人) ▼大森仙治(町民グラウンド管理人) ▼山崎トラ(海洋センター体育館管理人) ▼豊間根親友会・山田親友会(以上/有害鳥獣駆除に対して) ▼山田ロータリークラブ・陸中山田ライオンズクラブ(以上/社会奉仕活動に対して)

〔歴代町長〕

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	佐藤 善一 (2期) (3期)	昭和30. 4. 3	昭和34. 4. 2
		34. 4. 30	38. 4. 29
		38. 4. 30	42. 4. 1
2代	近藤 大助 (2期) (3期)	42. 4. 28	46. 4. 27
		46. 4. 28	50. 4. 27
3代	木下 禎治 (2期) (3期)	50. 4. 28	54. 4. 27
		54. 4. 28	58. 4. 27
4代	福士 彌兵衛 (2期) (3期)	58. 4. 28	59. 6. 2
		59. 7. 16	63. 7. 14
5代	黒澤 孝 (2期) (3期)	63. 7. 15	平成4. 7. 14
		平成4. 7. 15	8. 7. 14
6代	沼崎 喜一 (2期) (3期)	8. 7. 15	12. 7. 14
		12. 7. 15	16. 7. 14
		16. 7. 15	現在

〔歴代助役〕

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	鈴木 宗八	昭和30. 4. 27	昭和34. 4. 26
2代	萬 永三郎 (2期) (3期)	34. 12. 25	38. 12. 24
		38. 12. 25	42. 12. 24
3代	鈴木 弘一 (2期) (3期)	43. 3. 13	47. 3. 12
		47. 3. 13	50. 5. 1
4代	鈴木 榮治 (2期) (3期)	43. 3. 13	47. 3. 12
		47. 3. 13	50. 5. 1
5代	箱石 二郎 (2期) (3期)	50. 7. 31	54. 7. 30
		54. 8. 11	58. 8. 10
6代	佐賀 善作 (2期) (3期)	54. 8. 11	58. 8. 10
		59. 1. 17	63. 1. 16
7代	昆野 壽雄 (2期) (3期)	63. 1. 28	平成4. 1. 27
		平成4. 8. 10	8. 8. 9
8代	豊間根 章一 (2期) (3期)	8. 8. 10	12. 7. 14
		12. 8. 29	16. 8. 28
9代	川村 永爾 (2期) (3期)	16. 9. 22	現在

〔歴代収入役〕

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	豊間根左門	昭和30. 4. 27	昭和34. 4. 26
2代	山崎 禎司 (2期) (3期)	34. 8. 1	38. 7. 31
		38. 8. 1	42. 7. 31
3代	佐々木 丑太郎 (2期) (3期)	42. 10. 30	46. 10. 29
		46. 10. 30	50. 10. 29
4代	安倍 善勇 (2期) (3期)	50. 10. 30	54. 10. 29
		54. 10. 30	58. 10. 29
5代	白野 達雄 (2期) (3期)	58. 10. 30	62. 10. 29
		63. 1. 28	平成4. 1. 27
6代	木戸脇 英一 (2期) (3期)	平成4. 9. 19	8. 9. 18
		8. 9. 19	12. 7. 14
7代	石山 勝博 (2期) (3期)	12. 8. 29	16. 8. 28

※平成16年9月21日、第3回定例会で収入役を置かない条例が可決された。

〔歴代議長〕

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	阿部 伊助	昭和30. 4. 16	昭和34. 4. 2
2代	福士 正一 (2期) (3期)	34. 5. 11	38. 4. 29
		38. 5. 11	40. 9. 13
3代	白土 要一 (2期) (3期)	40. 9. 13	42. 4. 29
		42. 5. 8	46. 4. 29
4代	阿部 永八 (2期) (3期)	46. 5. 8	50. 4. 29
		50. 5. 8	54. 4. 29
5代	福士 彌兵衛 (2期) (3期)	54. 5. 10	58. 4. 29
		58. 5. 10	59. 7. 6
6代	福川 重文 (2期) (3期)	59. 8. 2	62. 4. 29
		62. 5. 7	平成3. 4. 29
7代	豊間根 彪文 (2期) (3期)	平成3. 5. 10	5. 5. 10
		5. 5. 10	7. 4. 29
8代	川村 重一 (2期) (3期)	7. 5. 10	11. 4. 29
		11. 5. 10	11. 9. 1
9代	佐々木 良一 (2期) (3期)	11. 9. 1	15. 4. 29
		15. 5. 9	現在

〔歴代副議長〕

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	佐賀 祐作	昭和30. 4. 16	昭和34. 4. 2
2代	芳賀 美一 (2期) (3期)	34. 5. 11	38. 4. 29
		38. 5. 11	40. 9. 13
3代	近藤 大助 (2期) (3期)	40. 9. 13	42. 4. 29
		42. 5. 8	46. 4. 29
4代	平芳 賀士 (2期) (3期)	46. 5. 8	50. 4. 29
		50. 5. 8	54. 4. 29
5代	福 重文 (2期) (3期)	54. 5. 10	58. 4. 29
		58. 5. 10	59. 8. 2
6代	川村 重文 (2期) (3期)	59. 8. 2	62. 4. 29
		62. 5. 7	平成3. 4. 29
7代	福士 隆雄 (2期) (3期)	平成3. 5. 10	5. 5. 10
		5. 5. 10	7. 4. 29
8代	沼崎 喜一 (2期) (3期)	7. 5. 10	11. 4. 29
		11. 5. 10	15. 4. 29
9代	昆野 壽雄 (2期) (3期)	15. 5. 9	現在

この町が大好きです。
これからもずっとこの町で...



山崎昭男 (船越・68歳)
若い人たちの働き口が増えて、活気のある町になって



佐藤朋美 (山田・27歳)
口ではうまく説明できないけど、とにかく山田のお祭りが最高!



阿部琢人(左)、佐藤佳翔(前)、遠藤朋寿(右)、黒澤剛(後)
山田南小学校1年の仲良し4人組。長崎地区にある「なかよし公園」が大好き!



篠澤麻美子 (織笠・28歳)
今の山田が好きなので、ずっと変わらずにいてほしいな



山本元氣 (織笠・14歳)
陸上の大会などで他の市町村にも行ったけど、山田の空気が一番きれい



左から大町剛、丸山航、豊間根翔、芳賀貴弘
体験学習で役場を訪れた豊間根中学校1年の4人の生徒。町の将来が楽しみだ!

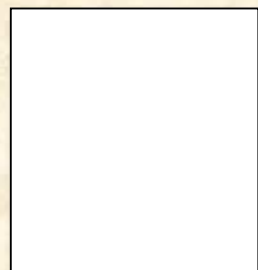
武藤クニ (北浜町・93歳)
今年も町民体育祭に参加。体動かして新鮮な空気を吸うのが健康の源



藤原律子 (織笠・64歳)
若者が安心して働ける町になってほしいですね



沼崎淳也 (大浦・30歳)
町民みんながお祭りを愛しているところがとても素晴らしい



50人目は、あなた自身です。今までで最高の笑顔をここに...



鈴木協子 (山田・61歳)
オランダとの文化交流がもっと盛んになっていくといいですね



本宿一夫 (境田町・63歳)
町民に団結力があるところが良い。今度は100周年目指して頑張りたい



堀合優斗 (長崎・15歳)
海がとてきれいで、ずっときれいでいてほしいです

50人の笑顔

山田町合併50周年を記念し、「50人の笑顔」として49人の町民の笑顔とともに、この町のよいところ、町の将来像などについてお聞きしました。そして、50人目の笑顔はあなた自身です。今までで最高の笑顔を山田の一つの歴史としてここに記録しておきましょう。(敬称略)

山田町合併
50周年記念企画
History
of Yamada town

平成17年10月



今年50周年を迎えた船越保育園。ジャングルジムに元気いっぱいの園児26人が集まりました。自分の夢に向かって伸び伸びと育ててほしい



村木亮子 (?)・優崇 (5) = 石峠 = 海がきれいで、魚もおいしい。山には自然がいっぱいあるから大好き



佐藤早苗 (豊間根・37歳)
子供のころから何一つ変わらない自然豊かなところが好き



菊地和三 (織笠・63歳)
町民がオランダに行ける機会を増やし、国際交流が発展して欲しい



阿部千賀子 (長崎・39歳)
スポ少などの子どもたちが活躍できる行事がたくさんあって素晴らしい

交通死亡事故ゼロ1年間達成

本町に賞賛状が贈られる



町長室で行われた授与式の様子

十月二十四日で交通死亡事故ゼロ一年間を達成した本町に、県警察本部（山内正和本部長）から賞賛状が贈られました。

同日役場で行われた授与式には、沼崎喜一町長、川村永爾助役と宮古警察署の田島直樹交通課長、同署山田交番の鬼同健所長、交通安全協会山田支会の川村敬

一支会長、交通指導隊の野崎文子隊長、交通安全母の会の昆野昭子会長ら十一人が出席。藤原明同署副署長から「町民一体となった交通事故防止活動に対し敬意を表します。この記録をさらに伸ばしていただく」と賞賛状が手渡されました。これに対し沼崎町長が「今回賞賛状をいただいたことを機に、これまでの最長記録である千二百四十四日を更新できるように、町一丸となって努力したい」と決意を新たにしています。

合気会山田道場創立30周年記念
19日に演武大会を開催

山田道場創立30周年記念演武大会が開かれます。入場は無料です。

▷日時 11月19日(土) 午前10時半～
▷場所 町立武徳殿
▷内容 県内道場招待演武、山田道場演武、師範演武
▷問い合わせ 財団法人合気会県支部山田道場事務局(山屋光典☎82-2256)へ。

イラスト



波や火事が多かったため、十二支のうち四つが残ったものではないかといわれていました。

その後、昭和三十一年に川向青年会（現在の十二支会）によって十二支が作られました。その際に四神様のうち青龍が十二支の辰（龍）、白虎が寅（虎）になり、残った朱雀と玄武が十二支に加わって十四体になりました。なお、朱雀は鳳凰とも呼ばれる鳥で、十二支の酉（鶏）ではないそうです。

今朝のお茶茶柱立って縁起良く
佐藤菊菊（荒川・77歳）
コスモスの花に見とれし
ジヨギングの友と語りし
若き日の頃
松崎静雄（船越・？歳）
年ごとに減りゆく
我が歯に老い感じ
入れ歯はずして磨く愛しさ
菊地孝進（船越・83歳）
幸せをかみしめ孫の洗いのもの
福土順子（八幡町・67歳）
あばら家の窓より入りし
月明かり眠られもせず
起きいでて雑草庭にうづくまる
毎夜きこえし虫たちの大合唱の
音もなくしずまり返る夜半の月

その時、かすかに虫の声が聞こえたような気がして、「虫さんありがとう。来年また会えたら聞かせてね」と別れました。

甲斐谷セチ（八幡町・90歳）
収穫終えて新米神佛に
ささげて感謝の言葉
豊間根マツ（石峠・？歳）
いろんなひとがいるんだね
相手は気にしてただけ
自分は気にしてなかったり
自分は気にしているけれど
相手は気にしてなかったり
自分では
とっても気にしていること
周りは全然みてなかったり
君が今すぐ落ち込んでるコト
本当はそんなに
気にするコトじゃないのかもね
風の踊り子（長崎・21歳）

みんなの
スペース



かつやま あい ちゃん
(豊間根保育園・6歳)

わたしのゆめ
大きくなったら漫画家になって、読んだ人がうれしく楽しくなるような漫画も描きたいな。

古里への便り⑦



ふる里山田同郷の会副会長
神奈川県藤沢市
久保寺カヨさん(73歳)
〔八幡町出身〕

菊薫るさわやかな季節になりました。古里山田の皆さまには元気で過ごしのことと存じます。ふる里山田同郷の会も温かい皆さまのご支援、ご協力をいただき創立二十周年を盛大に行うことができました。当日は関谷の山田大神楽、郷土土産の即売会など、会場全体が懐かしい山田の情景に包まれ、楽しい

ひと時を過ごすことができました。厚くお礼を申し上げます。古里山田には数々の誇れることがあると思います。青松白砂の大島（オランダ島）、紺碧の海、おいしい海産物、思いやりのある人情味豊かな人々、そして八幡宮、大杉神社のお祭り…。

わたしは山田のお祭りが大好きです。さらびやかで勇壮なお神輿様、力強い太鼓、郷愁を誘う笛の音、意気投合した舞の力強さ、しなやかさ。町内総出の結束のよさ、お祭り広場での熱

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

活気あるお祭り素晴らしい

わたしは山田に住んで三年になりますが、秋になるといつも感じるがあります。それは、山田の皆さまは本当にお祭りが好きなんだなということ。お祭りの間、町中がエネルギーで、とてもにぎやか。そして素晴らしいと思うのが、虎舞や神楽などの郷土芸能を若い人や子供たちが憧れを持って見て

十二支の謎教えてください

お祭りで十二支を見て、不思議に思うことがあります。ほくは子年生まれなのでネズミを探したら、ネズミの前に鳥とカメみたいな動物があり、数えたら全部で十四体あります。ネズミの前の動物は何ですか。また、

のこもった競演、先人たちから受け継いだ郷土芸能を情熱的に舞う姿…。日本中に胸を張って誇れる素晴らしいお祭りだと思えます。また、この意義あるお祭りを安全に進めるため、関係者の方たちの日夜並々ならぬご努力があったことでしょうか。

恒例の盛大な行事、お祭りを機に山田町がもっと多くの観光客でにぎわうことを願うと共に、豊かな自然を活かしつつ、産業の振興にさらに結び付くものは何かということ、山田の人たちとふる里会の人たち、共に考えていくことが大事ではないかと思えます。

【回答・木下一郎さん（川向十二支会）】
質問の鳥は朱雀、カメは玄武という神様です。わたしが調べたところ、十二支は今から約六十年前、川向町の奥喜左衛門さんが四方の守護神（東の青龍、西の白虎、南の朱雀、北の玄武）を寄贈したのが始まりで、十二支ではなく四神様だったそうです。それがいつから十二支と呼ばれるようになったのか理由は分かりませんが、昔は町内で津



今月の題字

竹内航平君
(織笠小6年)

町のわだい

東北電力宮古営業所など チューリップの球根を寄贈 オランダとの交流に役立てて

東北電力宮古営業所(山田満所長)などでは、チューリップの球根1,000個を町に寄贈しました。贈呈式は10月13日、役場で行われ、山田所長が「オランダとの交流に役立ててください」とあいさつ。沼崎喜一町長に手渡しました。球根は飯岡自治会や山田南小の児童らの手で長崎地区の町道沿いに植え付けられ、来春には色鮮やかな花が通行人の目を楽しませてくれそうです。



県立山田高等学校 創立80周年記念式典 伝統受け継ぎ発展を誓う

県立山田高等学校(主濱幸彦校長・生徒248人)の創立80周年記念式典が10月21日に町中央公民館で行われ、生徒や教職員、卒業生など650人が出席しました。式典では、主濱校長が「高校生が自覚的行動をすれば、町に地域活性化というねりが生まれる。80年の伝統を受け継いで一層努力することを誓う」と式辞を述べ、その後歴代校長、PTA会長らに感謝状が贈られました。同校は山田町立実科女学校として大正15年に創立。これまでに9千余人の卒業生を送り出しています。

阿部ソノブさんが100歳に 家族らの祝福に笑顔で応える

飯岡の阿部ソノブさん(明治38年生まれ)が10月12日で満100歳の誕生日を迎えました。同日、沼崎喜一町長が自宅を訪問し、長寿を祝福。「100歳おめでとうございます。町からのお祝いを持ってきましたよ。これからもお元気でいてくださいね」とあいさつし、長寿祝い金を手渡しました。阿部さんは身の回りの世話は何でも自分で行うなど、元気そのもの。かくしゃくとした様子で、家族らの祝福に笑顔で応えていました。





関口児童館

関口児童館の指定管理者募集

15日までに申し込みを

町では、来年度から関口児童館の管理を行う指定管理者を募集します。指定管理者制度は、公の施設の効率的・効果的な管理運営を行うために設けられた制度で、民間の法人や団体が指定管理者として施設の管理を行

うことができます。希望する方は受付期限までにお申し込みください。

▽応募資格 町内に事業所を置く法人または団体（個人の応募はできません）

▽受付期限 十一月十五日

▽応募先 役場保健福祉課児童福祉担当

8日に説明会を開催

町では、関口児童館指定管理者の募集要項などについての説明会を開催します。指定管理者の応募を希望される方はご参加ください。

▽日時 十一月八日（火）午後三時半

▽場所 関口児童館

▽内容 関口児童館指定管理者募集要項などについて

◆問い合わせ 役場保健福祉課児童福祉担当（☎82-3111）へ。

2006年版の県民手帳と能率手帳を販売します。ご希望の方は、役場総務課または役場各支所でお求めください。両手帳には、岩手県の概要や東京都内の地下鉄路線図、郵便料金表などが掲載されているほか、別冊アドレス帳も付いています。仕事に生活に役立つ一冊をお手元にいかがですか。

▽定価

- ・県民手帳（象牙色十四・〇センチ×八・五センチ）：六百円
- ・能率手帳（黒色十四・四センチ×九・五センチ）：七百円

※定価は消費税込みです。

▽問い合わせ 役場総務課情報管理担当（☎82-3111）内線416）へどうぞ。

織笠川 鮭まつり

第1回 11月27日(日) 第2回 12月4日(日)

時間 午前9時半～午後2時
(受け付けは午前9時～)

- ◆内容 ▶サケのつかみ捕り（1日4回実施。4回目は午後零時半～）▶サケの一本釣り（要予約）▶サクラマスフィッシング▶水産物直売（生サケ、新巻きサケ、イクラ、殻付きカキなど）▶食堂（鮭汁、ハラッコ丼、ハラッコうどんほか）
- ◆参加料 ▶サケのつかみ捕り…中学生以上1,000円、小学生800円（いずれも一人1匹）▶サケの一本釣り…3,000円（一人2匹まで）▶サクラマスフィッシング…500円（一人5匹まで。超過分は1匹につき100円追加）
- ◆問い合わせ 役場産業振興課商工観光担当（☎82-3111内線233）へどうぞ。

豪快な引きが魅力 一本釣りに挑戦を

今年もサケの一本釣りを開催します。参加希望の方はお申し込みください。

- ▷定員 1日80人（予約申し込み先着順となります）
 - ▷資格 釣りマナーに精通している人（中学生以下は保護者同伴とします）
 - ▷釣り方 ルアーまたはえさ釣り（ガラ掛け釣りは禁止）
- ※釣り道具、タモ網、えさは各自持参してください。
- ▷予約期限 第1回…11月25日、第2回…12月2日
 - ▷予約先 織笠漁業協同組合（☎82-2623）へ。



県民・能率手帳を販売 便利な一冊をお手元に



県で介護保健福祉協議会委員を募集

県では、宮古地域介護・保健福祉協議会委員の一部を一般公募します。

- ▷募集人数 3人
- ▷応募資格 宮古管内に住む満40歳以上の人（公務員と保健福祉医療の現場に従事している人は除きます）
- ▷委員の業務 協議会に出席し、宮古地域の高齢者保健福祉施策に関する意見や提言を行う
- ▷委員の任期 委嘱の日から来年3月31日まで
- ▷応募方法 応募書に必要事項を記入し、応募動機を400字～800字にまとめた作文を添えて郵送またはファクスで応募
- ▷提出期限 11月30日
- ▷応募先・問い合わせ 宮古地方振興局保健福祉環境部(〒027-0072宮古市五月町1-20 ☎64-2213FAX64-7014)へ。

防衛庁で自衛官募集しています

- ▷種目 2等陸・海・空士
- ▷応募資格 18歳以上27歳未満の男子
- ▷試験日 12月11日(日)
- ▷試験地 岩手駐屯地(滝沢村)
- ▷受付期限 12月2日
- ▷申込先・問い合わせ 自衛隊宮古募集事務所(☎63-3881)へどうぞ。

20日に宮古で無料調停相談行います

- 無料調停相談が行われます。交通事故、金銭、土地建物、公害、家庭の問題などでお困りの方は調停委員が相談に応じます。
- ▷日時 11月20日(日) 午前10時～午後3時
 - ▷場所 シートピアなど
 - ▷問い合わせ 宮古簡易裁判所(☎62-2925)へどうぞ。

バドミントン大会27日に開催します

- 町民バドミントン大会が行われます。なお、練習会も行っていますので、ご参加ください。
- ▷日時 11月27日(日) 午前9時～
 - ▷場所 山田中学校体育館
 - ▷種目 シングルス、ダブルス(男女別初級、上級)
 - ▷参加料 1人1種目400円(中学生は200円)
 - ▷練習会日時 毎週木・土曜…山田体育館 火・金曜…健康増進センター 午後7時～
 - ▷申込先・問い合わせ 11月22日までに町バドミントン協会事務局(岡市善敏☎84-3516)へどうぞ。

5日に公民館前でバザー開かれます

- 山田町国際交流協会では、国際識字教育支援バザーを開催します。どうぞご来場ください。
- ▷日時 11月5日(土) 午前9時～正午
 - ▷場所 中央公民館前広場
 - ▷問い合わせ NPO法人山田町国際交流協会(☎82-3651)へ。

年末調整の説明会18日に宮古で開催

- 宮古税務署では、年末調整説明会を開催します。本年からの改正点を中心に説明しますので、どうぞご参加ください。
- ▷日時 11月18日(金) 午後1時半～4時
 - ▷場所 宮古市民文化会館
 - ▷問い合わせ 宮古税務署(☎62-4611)へどうぞ。

行政相談あります

- ▷日時 11月17日(木) 午前10時～正午
- ▷場所 町中央コミセン
- ※行政について納得できないことなどご相談ください。

町で臨時職員を一般公募します

- 町では、臨時職員を募集します。選考方法は書類審査(履歴書)と面接です。
- ▷募集人数 1人
 - ▷業務内容 一般事務補助
 - ▷応募資格 町内に住所がある人でパソコン操作ができる人
 - ▷勤務場所 税務会計課
 - ▷任用期間 12月1日～来年3月31日
 - ▷賃金 日額5,400円
 - ▷応募方法 役場住民生活課、各支所に備え付けの履歴書に必要事項を記入の上、役場総務課に提出してください。
 - ▷応募期限 11月11日
 - ▷問い合わせ 役場税務会計課町民税担当(内線111)へ。

各種教室を開催皆さんの参加を

- ### ストレッチ体操教室
- ▷日時 11月16日(水) 午前1時半～3時
 - ▷場所 保健センター
 - ▷内容 肩こり、腰痛予防のストレッチ
 - ▷持参する物 運動靴、タオル
 - ▷問い合わせ 役場保健福祉課保健指導担当(内線165)へ。
- ### 親子海鮮料理教室
- ▷日時 11月19日(土) 午前9時～正午
 - ▷場所 鯨と海の科学館
 - ▷対象 小・中学生、保護者30人
 - ▷参加料 300円(材料代)
 - ▷持参する物 筆記用具、出刃包丁、エプロンか前掛け
 - ▷申込期限 11月17日
 - ▷申込先・問い合わせ 鯨と海の科学館(☎84-3985)へ。

9日から15日まで 全国火災予防運動 みんなで防火に努めよう

「あなたです 火のあるくらしの 見はり役」を全国防火統一標語に、11月9日から15日まで秋季全国火災予防運動が展開されます。これから火災が発生しやすい季節を迎えます。次のポイントに注意し、家族みんなで防火に努めましょう。

◆火の用心7つのポイント

- ・家の周りに燃えやすいものを置かない。
- ・寝タバコやタバコの投げ捨てをしない。
- ・天ぶらを揚げるときはその場を離れない。
- ・風の強いときはたき火をしない。
- ・子供にはマッチやライターで遊ばせない。
- ・電気器具は正しく使い、たこ足配線をしない。
- ・ストーブには燃えやすいものを近づけない。



11月9日は「119番の日」 通報は落ち着いて正確に

11月9日は「119番の日」です。一刻を争う119番通報では▷火事か救急か▷場所は▷火事、事故などの状況は▷あなたの氏名と電話番号——を落ち着いて正確に伝えましょう。

本町から携帯電話で119番通報をすると宮古消防署につながりますので、発生場所はより詳しく伝えましょう。また、通報後は消防署から問い合わせすることがありますので、携帯電話の電源は切らずに現場近くの安全な場所にいるようお願いいたします。

◆問い合わせ 山田消防署(☎82-3139)へどうぞ。

山田町合併50周年記念
広報クイズ
221
 三つの中から正しいものを選んで、応募してね。

山田町合併50周年記念として、全問正解者の中から抽選で20人に500円の図書カードをプレゼントします。皆さんふるってご応募ください。応募は一人1通です。

- 今年、山田町は合併○周年？
 ①A50 ②B100 ③C130
- 大沢、山田、織笠、船越の4中学校が統合し、山田中学校が誕生したのは昭和○年？
 ①A20 ②B30 ③C40
- 「50人の笑顔」(28頁)に登場している船越保育園の園児は何人？
 ①A16人 ②B26人 ③C36人
- 県民手帳の定価は1冊何円？
 ①A600円 ②B700円 ③C800円
- 今月の「一歳になりました」に登場している赤ちゃん12人のうち、女の子は何人？
 ①A3人 ②B4人 ③C5人

【応募方法】 はがきに①クイズの答え②住所③氏名④年齢を明記の上、応募ください。

【応募先】 〒028-1392 (住所記載不要) 山田町役場広報クイズ係

【締め切り】 11月20日 (当日消印有効)
 ☆前回の正解は、①-A、②-A、③-B、④-Bでした。応募者数は35通で全員が正解、抽選の結果次の10人が当せんしました。

長崎=伊藤亜紀子(14)、沼崎滋(52)、藤原静子(55) 飯岡=佐々木泰子(16) 船越=鈴木佳央理(?) 田の浜=坂本香純(11) 織笠=佐々木麻希(?)、武藤佳子(19) 大沢=鈴木保美(?) 荒川=村上スミ(80)
 <敬称略>



◆初の横書きピンボケです。いつもと違い新鮮な感じがします▶感じといえば、漢字の間違いが。前回のピンボケで「イベントが抱負」とありましたが、正しくは「豊富」でした。おわびして訂正致します。言い訳はしません。パソコンが変換を間違えたせいです。冗談です。 (和)

◆山田町合併50周年記念号の発行に何とかこぎ着けました。発行までにはいろいろと苦労もありましたが、50年の節目の年に広報編集に携わることができたことを光栄に思います。写真を提供してくれた皆さん、取材に快く応じてくれた皆さん、大変ありがとうございました。(幸)



佐藤伊千香 (山田・剛範・女)



菊池優杏 (川向町・範枝・男)



大川想 (大沢・貴史・男)



鈴木優人 (大沢・俊一・男)



大畑真之介 (船越・雅宏・男)



阿部風沙 (大沢・光輝・男)



塚澤千草 (長崎・徹・女)

11月生まれ
赤ちゃん紹介
一歳になりました

※敬称略・()内は地区名、保護者、性別です。



矢口美沙希 (田の浜・明夫・女)



福士裕那 (大沢・清園・女)



内館楓 (大沢・繁・女)



斉藤利光 (荒川・光義・男)



高橋佑照 (大沢・隆司・男)

おめでとう・おくやみ

9月届け出分 (敬称略)

【出生】 () は保護者名と性別

▷山田 及川京香(新吾・女)、佐藤楓(憲人・女)、佐藤優真(保博・女)、佐藤葉那(勝信・女)、笹花颯真(弘行・男)、山崎海星(克・男)▷船越 橋田隆雅(京一・男)▷織笠 佐藤莉那(満・女)▷大沢 大町真司(康明・男)、中嶋叶(美鈴・男)▷豊間根 佐々木千尋(秀浩・女)▷荒川 瀬川龍(純一・男)

【結婚した二人】 () は住所

▷山屋善博(飯岡)・小袖理恵(久慈市)▷上川原順(宮古市)・芳賀彩子(荒川)▷及川康吉(大槌町)・田代あきえ(田の浜)

【死亡】 () は年齢

▷山田 横田堅祐(68)、熊谷サトエ(85)、古館俊基(34)▷船越 三浦ハツ(90)▷大浦 生駒キツ(89)▷織笠 菊地秀子(73)、大森光(77)▷大沢 佐藤勝雄(78)▷豊間根 島山孝幸(45)、丸山秀男(67)▷荒川 芳賀與四美(81)▷石峠 丸山吉右エ門(76)

町民のうごき (9月1日~30日)

▷出生……12人	▷転入……35人	▷人口…20,787人 (今月減11人)
▷死亡……16人	▷転出……42人	男…9,983人 女…10,804人
		▷世帯数……7,257世帯